

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	17-033	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名（原題／訳）		
Alcohol and lung cancer risk among never smokers: A pooled analysis from the international lung cancer consortium and the SYNERGY study. 非喫煙者における飲酒と肺がんリスクの関連		
執筆者		
Fehringer G, Brenner DR, Zhang ZF, Lee YA, Matsuo K, Ito H, Lan Q, Vineis P et al.		
掲載誌		
Int J Cancer. 2017 May 1;140(9):1976-1984. doi: 10.1002/ijc.30618		
キーワード		PMID
飲酒量 肺がん 非喫煙者		28120396
要 旨		
<p>目的： 飲酒量と肺がんリスクとの関連は明確ではない。過去の研究結果の解釈は複雑であるが、2者間には喫煙が交絡している可能性がある。そこで、飲酒量と肺がんリスクの関連を、大規模な国際共同研究を用いて、非喫煙者だけを分析対象とすることで、できる限り喫煙の影響を取り除いた上で検討した。</p> <p>方法： 本研究は、22のケースコントロール研究とコホート研究を含み、2548名の非喫煙の肺がん患者と、9,362名の非喫煙者を分析した。国際的肺がんコンソーシアム（共同事業体）（ILCCO）とSYNERGYコンソーシアム内でアメリカ、ヨーロッパ、アジアから得た。飲酒量は、1日当たりの飲酒量をグラム換算（g/日）で分類し、肺がんのオッズ比(OR)と95%信頼区間(CI)を算出した。解析モデルとして、飲酒量を連続量としても用い、非線形性も考慮して、キュービック（制限3次）スプライン分析を実施した。また肺がんの組織学的サブタイプや飲酒の種類別（ビール、ワイン、蒸留酒）の解析も行った。</p> <p>結果： 飲酒量と肺がんリスクは負の関連を示し、非飲酒者に対して、軽度飲酒者及び少量から中等量飲酒者でその影響は最も強かった（一日当たり 0-4.9 g 未満の群：OR=0.80, 95% CI=0.70-0.90; 5-9.9g/日の群：OR=0.82, 95% CI=0.69-0.99; 10-19.9 g/日の群：OR=0.79, 95% CI=0.65-0.96）。肺がんとの負の関連は、ワインと蒸留酒で認められたが、ビールでは認められなかった。</p> <p>結論： 対象者が少量から中等量の飲酒者の場合、肺がんのリスクと負の関連を認めた。種類別でもワインや蒸留酒で同様の負の関連を認めたが、ビールではなかった。今回の結果は、飲酒と肺がんの関連に対する喫煙の交絡を受けていないが、他の交絡因子の影響が存在する可能性がある。非飲酒者が保持する他の因子に重要性が伺われる。</p>		